

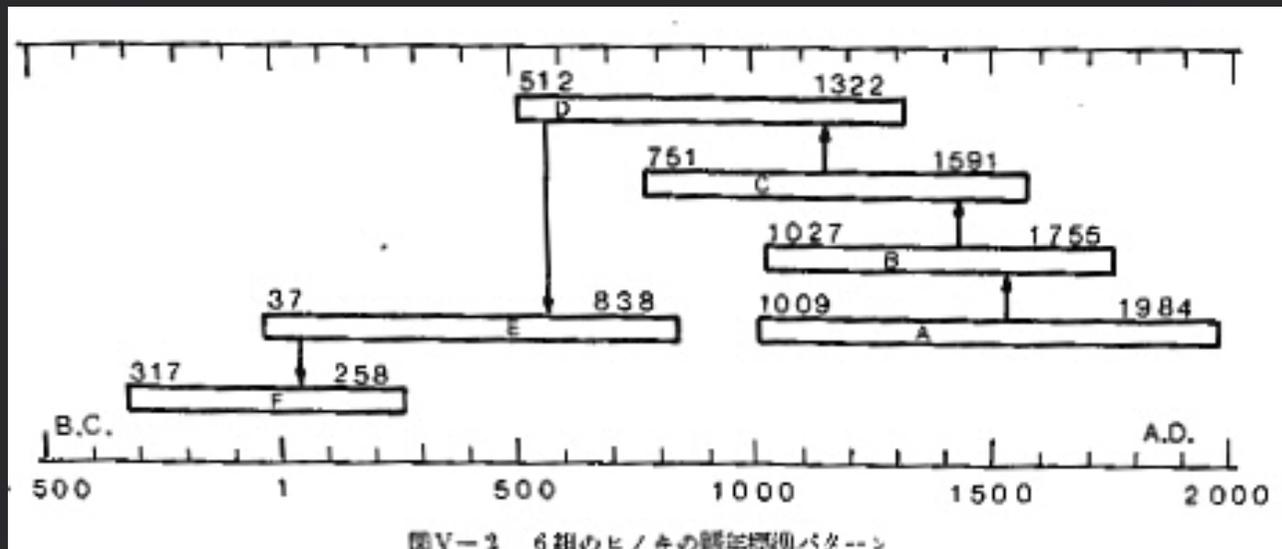
# 奈文研の暦年標準パターンに 関する問題提起

年輪年代法の信頼性をめぐる課題と訴訟の意義についてご説明します。

# 背景

1

1983年



出典：奈良国立文化財研究所1990『奈良文化財研究所学報48：年輪に歴史を読むー日本における古年輪学の成立ー』奈良国立文化財研究所 P.97

奈文研が「ひのき暦年標準パターン」の完成を発表しました。

2

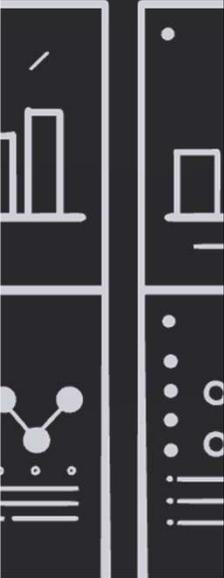
独占的实施

紀元前から中世までの木材年輪年代測定を、事実上奈文研が独占的に行っています。

3

問題点

暦年標準パターン、基礎試料、照合時のデータが未公開のままであり、追い検証がなされていません。



# ガイドラインと研究データの公開

## 2014年のガイドライン

文部科学省が研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインを公表しました。

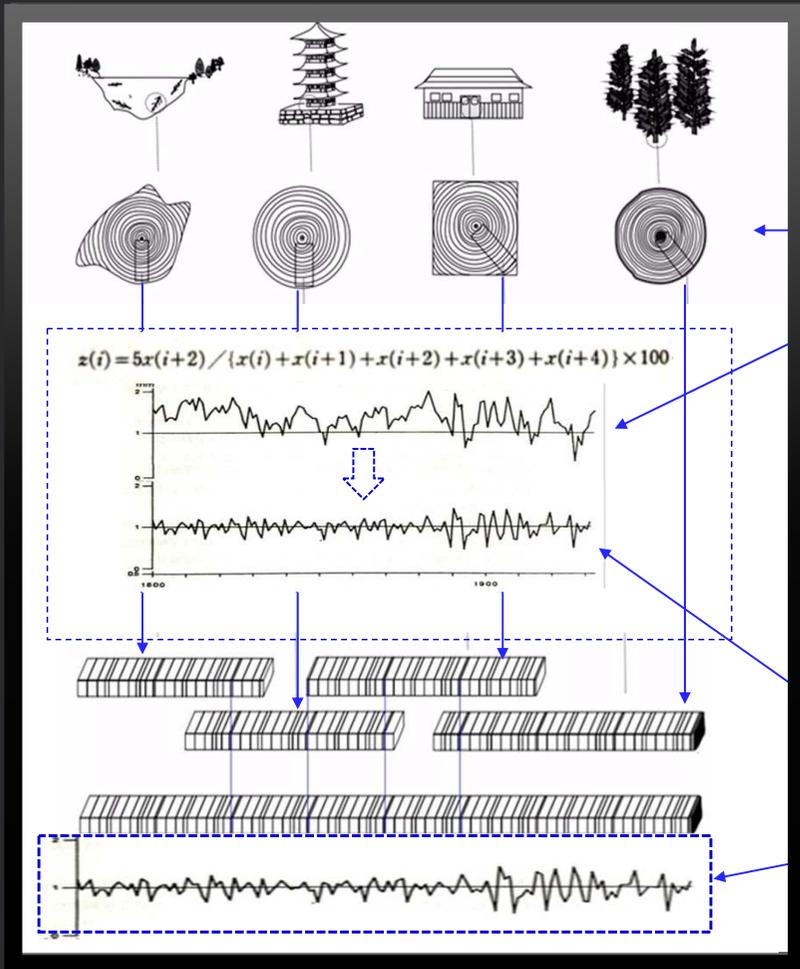
## データの公開

客観的で検証可能なデータを科学コミュニティへ公開することが求められています。

## 追検証の重要性

データの保存・開示により追検証可能な状態を維持することが重要です。

# 日本の年輪解析研究と現状と展望



公開請求した情報  
(1) 暦年標準パターン、その他に関する情報

試料の現物

試料の写真・画像データ 1

試料の年輪幅（生）データ 2

年輪幅データを基準化

若年時は年輪幅が大  
その後、年輪幅が小  
5年移動平均法で補正を行う  
「グラフ・データ」作成

試料の年輪幅のグラフ・データ 3

暦年標準パターンのデータ 4



# 日本の年輪解析研究と現状と展望

データの有無

## 公開請求した情報

試料の現物

試料の写真・画像データ 1

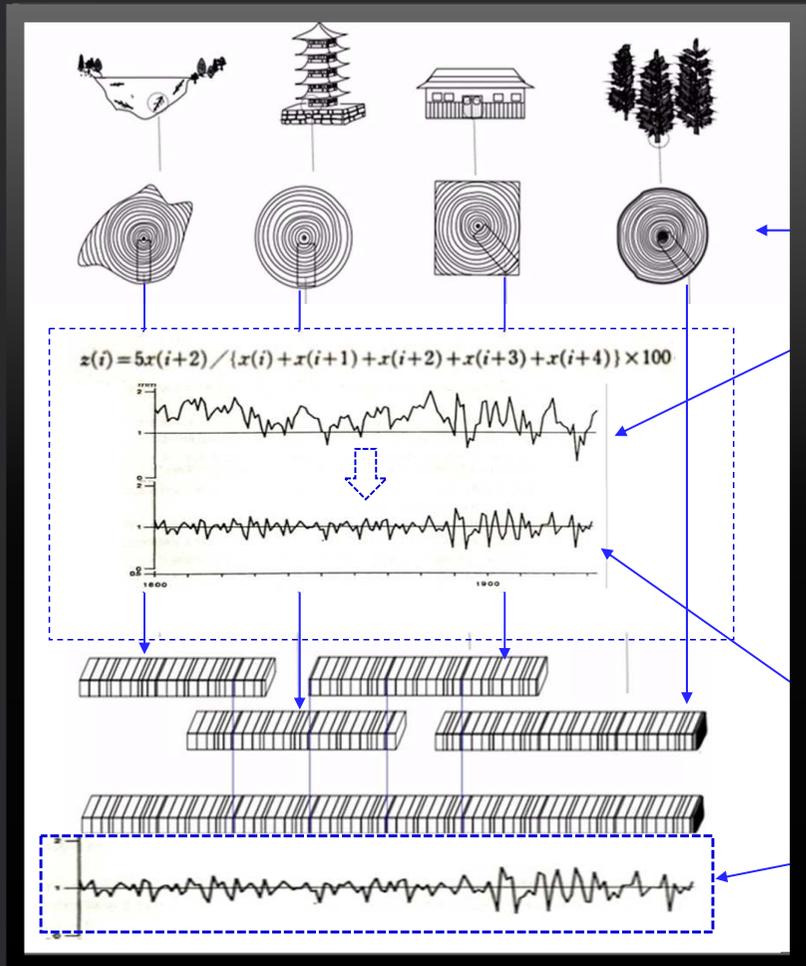
試料の年輪幅（生）データ 2

年輪幅データを基準化

若年時は年輪幅が大  
その後、年輪幅が小  
5年移動平均法で補正を行う  
「グラフ・データ」作成

試料の年輪幅のグラフ・データ 3

暦年標準パターンデータのデータ 4



# 日本の年輪解析研究と現状と展望

公開請求した情報  
(1) 暦年標準パターン、その他に関する情報



試料の現物

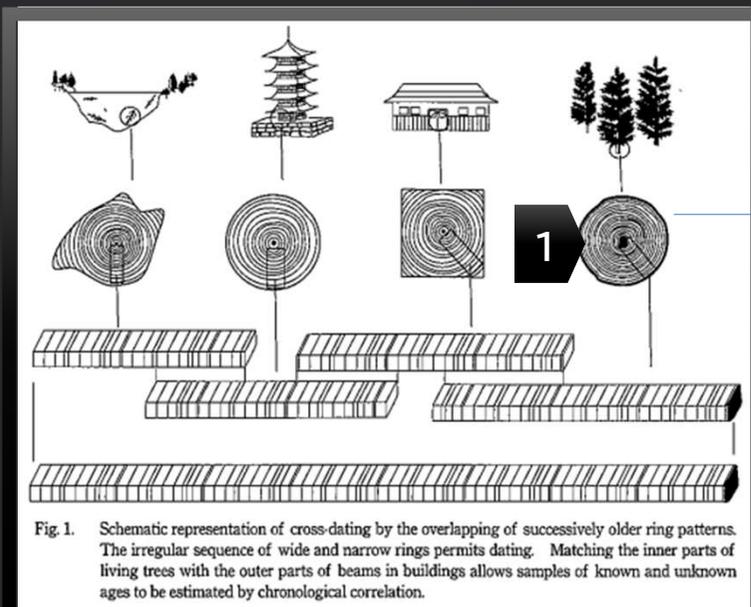


Fig. 1. Schematic representation of cross-dating by the overlapping of successively older ring patterns. The irregular sequence of wide and narrow rings permits dating. Matching the inner parts of living trees with the outer parts of beams in buildings allows samples of known and unknown ages to be estimated by chronological correlation.

出典：野田真人，「日本の年輪解析研究の現状と展望」，『木材学会誌』，第52巻，第5号，2006年，273ページ，図1より抜粋。

試料の写真・画像データ 1

試料の年輪幅（生）データ 2

年輪幅データを基準化

若年時は年輪幅が大  
その後、年輪幅が小  
5年移動平均法で補正を行う  
「グラフ・データ」作成

試料の年輪幅のグラフ・データ 3

暦年標準パターンのデータ 4

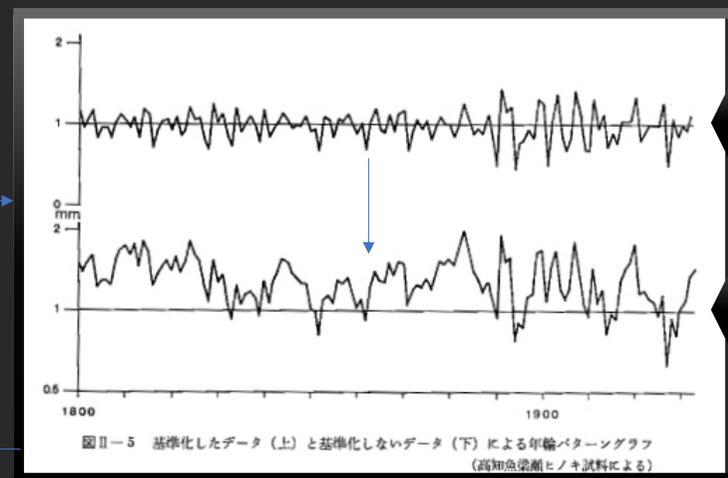


図11-5 基準化したデータ（上）と基準化しないデータ（下）による年輪パターングラフ（高知県産ヒノキ試料による）

出典：「年輪に歴史を読む」，同盟者，23ページ，図11-5「基準化したデータ（上）と基準化しないデータ（下）による年輪パターングラフ」より抜粋（高知県産ヒノキ試料による）。

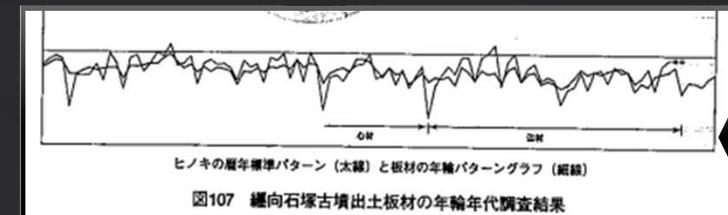


図107 纏向石塚古墳出土板材の年輪年代調査結果

出典：『大和纏向遺跡』，学生社，317ページ，図107「纏向石塚古墳出土板材の年輪年代調査結果」より抜粋。

3

2

4

# 日本の年輪解析研究と現状と展望

公開請求した情報  
(1) 暦年標準パターン、その他に  
に関する情報

データの有無

試料の写真・画像データ 1



試料の年輪幅（生）データ 2



試料の年輪幅のグラフ・データ 3



暦年標準パターンのデータ 4



# 奈文研の問題点

(被告準備書面(10) 別紙)

【年輪年代法】に関する法人文書開示請求書で請求した情報一覧表

		試料									暦年標準パターン				
		画像データ		数値データ		グラフデータ			数値データ		グラフデータ				
		紙	電子	紙	電子	紙・数値	紙グラフ	電子	紙	電子	紙・数値	紙グラフ	電子		
A A A	1	Dパターン	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○	X			
	2	Eパターン	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○				
	3	Fパターン	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○				
	4	Aパターン	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○				
	5	木曾ヒノキ	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○				
B B B	1	正倉院25号	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	2	正倉院28号	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	3	正倉院38号	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	4	法隆寺	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○	▲	▲	×	
	5	池上曾根	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○	▲	▲	×	
	6	勝山池	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○	▲	▲	×	
	7	奥向石塚	×	×	△	○	▲	▲	×	▲	○	▲	▲	×	

- ・ 暦年標準パターン未公開 データの信頼性を第三者が検証できない状況です。
- ・ 基礎試料・照合データ未公開 測定結果の追検証が不可能となっています。
- ・ 不透明な運用 ガイドラインの理念に反する運用が長期間続いています。

# 暦年標準パターンと木材・出土材の年輪パターンの 照合結果に関する資料・データ



池上曾根



法隆寺



正倉院28号



纏向勝山池



纏向石塚遺跡

# 訴訟に至った経緯

1

## 公開要求

原告が光谷拓実氏にデータ公開を求めましたが実現しませんでした。

2

## 情報公開請求

やむを得ず、情報公開請求を行いました。

3

## 訴訟提起

問題解決を図るため、訴訟を提起しました。



# 情報公開請求訴訟の判決結果

## 開示が認められたデータ

### ・暦年標準パターンの数値データ

- ・奈文研が保有するデータの一部
- ・研究の透明性向上につながる

#### ✦ 裁判所の判断基準

- ・奈文研が「組織的に保有」しているかどうか
- ・開示対象は法人が管理するデータに限定される

1. 画像データ（AAA1～5、BBB4～7）
  - ・ 奈文研が保有していない、または存在を確認できない
2. 試料の年輪データ、グラフデータ
  - ・ 「組織的に用いるもの」ではないと判断
3. 建築部材との照合データ
  - ・ 個人の研究データとみなされ、法人文書ではないと判断

## 開示が認められなかったデータ

# 開示データの重要性

## □ 研究の透明性向上

- これまで非公開だった数値データが初めて公表
- 第三者が測定結果を検証できる環境が整う

## □ 年輪年代測定の信頼性向上

- 奈文研の測定結果の追い検証が可能に
- 古代史研究における「確定年代」の再評価が進む可能性

## □ 今後の展開

- 他の関連データの開示請求を継続
- 日本古代史ネットワークがデータを分析し、研究を進める

# 開示されなかったデータとその影響



## 開示されなかったデータ

- 暦年標準パターンの作成過程（試料データ・元データ）
- 建築部材との照合データ
- グラフデータ（視覚的に理解しやすいデータ）



## 問題点

1. 暦年標準パターンの信頼性が検証できない
  1. 奈文研の測定結果を再現することが困難
  2. 今後の研究に影響を及ぼす可能性
2. 歴史的建築物の年輪年代測定が不透明
  1. 正倉院や法隆寺の建築年代の確定に問題が残る
3. データ管理の不備が浮き彫りに
  1. 奈文研の「組織的な管理」が不十分である可能性



# 課題と展望

## ✓データのさらなる開示要求

- 基礎試料データや建築部材との照合データの開示を継続的に求める
- 他の研究機関との協力を進める

## ✓データの信頼性検証

- 日本古代史ネットワークが公開データを用いて検証作業を実施
- 研究の透明性確保に向けた取り組みを強化

## ✓奈文研のデータ管理の透明性確保

- 「組織的に用いるもの」の基準の見直しを求める
- 公共研究機関としての情報公開のあり方を議論

## ➤ 次のステップ

**1** 研究者コミュニティとの意見交換

**2** 追加情報公開のための法的手続きの検討

**3** メディア・学会を通じた情報発信



# 訴訟の成果と課題

## ▶ 成果

奈文研が昨年12月に一部基礎データを公開しました。  
木材の年輪幅測定データが発表されました。

## ▶ 課題

暦年標準パターンと照合データは未公開のままです。  
十分なデータ公開が今後求められます。



# 問題点 1: 基礎試料の欠如

## 基礎試料の不在

基礎試料が残存していない可能性が浮上しました。

## 検証の困難さ

これにより、今後の検証が困難になる可能性があります。



## 問題点 2: 正倉院のデータ欠如



### 正倉院データの不在

正倉院の建築部材に関するデータが双方に残存していません。



### 保管体制の問題

国にとって重要な建築物データの保管体制に問題があります。

# 信頼性への影響

1

暦年標準パターンの信頼性低下

2

建築物・出土材の年代に疑義

3

放射性炭素年代測定法への影響

# 今後の対応と展望

## 1 暦年標準パターンの検証

公開されたデータを用いて検証を予定しています。

## 2 データ公開状況の注視

奈文研の今後のデータ公開状況を注視します。

## 3 控訴申立て

第1審で認められなかった点について控訴審において争います。

